

理工学部

【2024年度大学評価総評】

全体的に現状に留まることなく、不断の改革、改善に様々な方法で取り組んでいて高く評価できる。2024年度自己点検・評価シートについては、着実な編入制度の導入、法政大学理系コンソーシアムの主導的な設立を実現して全学的にも評価されるべき重要な改革がなされている。とりわけ後者に関しては、企業、自治体、同窓会等との強固な連携を図りつつ、学生に対して入学から就職に至る一貫した支援体制を構築しており、学力レベル、教育・研究効果、社会的評価のいずれの面でも有効な改善を企図して推進している点が素晴らしい。特に、キャリア相談会において、本学部のディプロマポリシーの達成度をどう評価しているか、参加企業側にアンケート調査を実施している点が注目される。

また、2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書では、目標の設定と改善策との間に整合性がとられている。特に、オンライン教育を含めた授業方法の向上や法政大学理系コンソーシアムによる社会貢献が目指されており、加えて多様な課外活動に対する新しい学生支援体制の模索も大いに期待できる。さらに、2024年度中期目標・年度目標においても、2023年度を全体的に継承しつつさらなる改善を目指すことが確認でき、特にSAの再開による海外での教育実績強化と、関連する課外活動の活性化は今後大いに期待できる。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/rinen/	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会規定，理工学部教授会内規	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/diploma/ （ディプロマポリシー） chrome-extension://efaidnbmninnibpcapjpcglclefindmkaj/https://www.hosei.ac.jp/application/files/5416/8654/2959/hoseiriko_panfu_20230612.pdf （学部パンフレット）， https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjozMdk2MjIsImNh dGVnb3J5TnVtIjo20DE1fQ==&pNo=1 （履修の手引き）	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
カリキュラム・ツリー，カリキュラム・マップ， https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ 履修の手引き https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjozMdk2MjIsImNh dGVnb3J5TnVtIjo20DE1fQ==&pNo=1 シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AP&t_mode=sp	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい

4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥ 単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
カリキュラム https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ 履修の手引き https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjozMDE1fQ==&pNo=1 シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AP&t_mode=sp 教授会資料	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
カリキュラム https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/ 履修の手引き https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjozMDE1fQ==&pNo=1 シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AP&t_mode=sp 成績調査願	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	
教授会等において授業評価アンケート、入学前アンケート、卒業生アンケート結果を報告し全員でチェックしている。	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、

公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
学部パンフレット https://www.hosei.ac.jp/riko/info/article-20220325193012/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 入学試験要項 https://nyushi.hosei.ac.jp/gakubu_gakka/riko	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
学部パンフレット https://www.hosei.ac.jp/riko/info/article-20220325193012/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 入学試験要項 https://nyushi.hosei.ac.jp/gakubu_gakka/riko	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会規定，理工学部教授会内規 教授会資料	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
--	----

6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
理工学部教授会規定，理工学部教授会内規 教授会資料	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種ガイダンス配布資料 ・履修の手引き https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjozMDE1fQ==&pNo=1 ・教授会資料 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会資料 ・法政 大学研究倫理委員会規程 	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術フォーラム報告 https://www.hosei.ac.jp/scitech/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54 ・法政大学学術データベース https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm 	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5③学修成果可視化システム (Halo) を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
Halo の正式運用が開始されておらず、組織的な活用に使っていない。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）
2022 年度中期目標・年度目標達成状況に関しては、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携の評価基準がほぼ達成されている。ハイフレックス授業を原則として授業を展開し、Zoom などのオンライン授業環境に加え、学習支援システムを活用することで、従来よりも効率的に授業を実施できる環境が整ったことは大いに評価できる。2022 年度の重点目標としてあげたカリキュラムの改定では、通年科目を半期化することで、卒業年度を遅らせることなく半期程度の留学が可能にしたこと、KLAC と連携して教養教育についてもカリキュラムの見直しを行い国際化教育の体制が強化されたことは大いに評価される。また、カリキュラム見直しは、編入制度の実現にも関連しており、2 年生編入の制度を整え、次年度より実施することとした成果を期待したい。また、企業、自治体、同窓会等からなる理系コンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進するための設立準備を行い、次年度から実施できる体制を整えたことも高く評価できる。入学から就職に至るまで一貫した支援体制を構築することで、入学者の学力レベルの向上、教育効果の向上、卒業生に対する社会的評価の向上に関する今後の成果が大いに期待される。
【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】
2023 年度に設立した理系コンソーシアムには、100 社以上の企業および自治体に参加いただいている。2024 年 3 月に開催したイベントでは、学生の学術ポスター発表を実施し、企業をおよび同窓生に研究成果を披露した。続いてキャリア相談会を実施し、企業のニーズおよび学生と社会とのコミュニケーションから学生の学習成果、研究成果を客観的な視点から評価する機会を提供した。新カリキュラムの開始に合わせ、本年度より 2 年次編入を始め、2025 年度より 3 年次編入を実施する予定である。

2 各基準の改善・向上

基準 4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
2年次および3年次編入制度を導入した。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。		

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証	
中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。	
年度目標	効率的な運営組織の立案	
達成指標	新しい運用体制が提案されること	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	オンライン環境の利用、書類の電子化により効率化等を実現した。
	改善策	対面とのバランスに配慮しながらオンライン会議の適切な活用を推進し、一層の効率化を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンライン環境の利用、書類の電子化により効率化は実現されたが、メリット・デメリットが不明瞭なところがある。
	改善のための提言	授業と会議のそれぞれの特性に合わせ、対面とオンラインのバランスに配慮しながら一層の効率化を図る。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLACとの連携強化。	
年度目標	留学を想定した推奨履修プランを作成し、学生に周知する。	
達成指標	幾つかの魅力的なプランが作成され、学生に周知されること	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	通年科目を半期化し、半期程度の期間の留学であれば、留年することなく実施可能な新カリキュラムが開始された。また留学を想定して国際教養を身に着けるための科目がKLACに設置された。
	改善策	学内外に向けて、留学を想定した履修プランの周知に務める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通年科目を半期化、KLACの国際教養に関する科目設置など、留学を想定した履修体制の構築は高く評価できる。
	改善のための提言	留学を想定した履修プランの周知に務める。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	オンライン教育環境の活用	
年度目標	オンライン教育の活用モデルを作成し教員間で共有する。	
達成指標	オンライン教育が効果を発揮するような実施例が教員間で共有されること	
年 度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A

末 報 告	理由	コロナ後も引き続きオンライン環境の活用が行われ、コロナ前に比べて利便性や教育効果が向上しているものの、教員間での情報共有には至っていない。
	改善策	教員間の情報共有を促進し、オンライン教育のさらなる効果的活用を目指す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンライン環境の活用については、学科内や教員間での情報共有には至っておらず、オンライン教育体制の統一的な運用がなされていない。
	改善のための提言	教員間並びに学科内の情報共有を促進し、オンライン教育の効果的かつ統一的活用を目指す。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
年度目標		卒業生にアンケートを実施し、社会から見たディプロマ・ポリシーの重要性、達成状況などを確認する。
達成指標		アンケート結果の収集と分析が行われること
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	キャリア相談会に参加した卒業生にアンケートを実施し、企業からみた各ディプロマポリシーの重要性ならびに達成状況の確認を行い、その結果を教授会にフィードバックした。
	改善策	卒業生アンケートの実施を継続し、2023 カリキュラムの検討に備える。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	キャリア相談会を活用した企業からみた各ディプロマポリシーの重要性ならびに達成状況の確認は高く評価できる。
	改善のための提言	キャリア相談会を利用した卒業生アンケートの実施を継続する。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		編入学生の受け入れ態勢の構築
年度目標		3年次編入制度の策定を行う。
達成指標		3年次編入の実施が可能となること
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	指定校型3年次編入の制度を設計した。24年度に募集を開始し、25年度から受け入れが始まる予定である。
	改善策	編入学受け入れの体制を安定させる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	指定校型3年次編入制度が設定されたことは定員確保において高く評価できる。
	改善のための提言	実際に編入学生を受け入れた場合の履修指導について留意する。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		年齢構成を適正化する。
年度目標		年齢構成に配慮しつつ、適切な後任人事を行う。
達成指標		教員の平均年齢が低減されること
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	概ね40代前半の教員を採用することを目標に人事を行い、それを達成した。
	改善策	引き続き、年齢構成に配慮した採用を行う。
	質保証委員会による点検・評価	

	所見	40代前半の若手教員の採用を推進し、年齢構成の適正化が達成できている。教育・研究業績や外部資金獲得実績等とのバランスはある程度必要と思われる。
	改善のための提言	継続して年齢構成の適正化を維持する。
評価基準		学生支援
中期目標		学生に対するサポート体制を充実させる。
年度目標		課外活動の支援を行う。
達成指標		課外活動が活性化すること
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍対応が廃止され、多くのイベントの対面実施が可能となり、課外活動が再び活性化した。今後は、コロナ前を上回る状況となるよう、更なる支援や過剰な規制の緩和が必要である。
	改善策	必要な場合は規制の緩和も含め、課外活動の支援となる施策を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍対応が廃止により課外活動が再び活性化したが、アフターコロナにより学生の意識も変革しているので、新しい学生支援体制も議論すべきである。
	改善のための提言	規制緩和も含め、アフターコロナの意識を踏まえた多様な課外活動の支援を行う。
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
年度目標		法政大学 理系コンソーシアムを設立し、運用を開始する。
達成指標		理系コンソーシアムが設立され、キャリア相談会等のイベントが実施されること
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	一般社団法人として法政大学理系コンソーシアムを設立し、100社を超える企業様にご参加頂き順調に運営を開始した。
	改善策	法政大学理系コンソーシアムを確実に運営し、参加企業数を伸ばす。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	法政大学理系コンソーシアムの設立は理工学部の新たな社会貢献体制として歴史的な一歩であり、大変高く評価できる。
改善のための提言	法政大学理系コンソーシアムは、参加企業数の増加に留まらず、多様な社会貢献、情報発信を推進する。	
【重点目標】 企業、自治体、卒業生などからの協力を仰ぎ、入学から就職に至るまで一貫した支援体制を構築することで、入学者の学力レベルの向上、教育効果の向上、卒業生に対する社会的評価の向上を図る。		
【目標を達成するための施策等】 理系コンソーシアムを設立し、コンソーシアムを通して、参加企業、自治体、同窓会からの支援を仰ぐ		
【年度目標達成状況総括】 理系コンソーシアムを設立し、企業、自治体、同窓会の協力を得ながら、入学から就職にいたるまで一貫したキャリア形成を支援する体制を構築した。具体的な施策として、自治体との連携による入学支援、杉並工科高校との協定締結、編入学の実施、ベトナム郵政通信技術大学との協定締結、採用活動支援窓口の開設、キャリア相談会の実地、コンソーシアム冠奨学金の新設などを行った。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。

年度目標	オンライン資料等の効率的利用
達成指標	オンライン資料等の効率的利用法提案
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLAC との連携強化。
年度目標	SA 制度の再開・今後の展開の検討
達成指標	海外での教育実績
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンライン教育環境の活用
年度目標	オンライン教育関連活用事例の共有・在外研究時での活用の検討
達成指標	オンライン環境の活用事例および関連する IT ツール使用例の理系学部間での情報共有
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
年度目標	卒業生の所属先からのディプロマ・ポリシーの達成状況の確認
達成指標	データの収集および分析から達成状況を把握する
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	編入学生の受け入れ態勢の構築
年度目標	2 年次編入制度の運用状況評価
達成指標	2024 年度に転入した 2 年次編入学生へのアンケートの実施
評価基準	教員・教員組織
中期目標	年齢構成を適正化する。
年度目標	後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。
達成指標	年齢分布の均等化
評価基準	学生支援
中期目標	学生に対するサポート体制を充実させる。
年度目標	引き続き課外活動の支援を行う。
達成指標	課外活動の活性化
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
年度目標	運用を開始した理系コンソーシアムと連携を開始する。
達成指標	キャリア相談会など 2 回以上のイベントを実施
<p>【重点目標】 理系コンソーシアムと連携し、企業、自治体、卒業生からの協力を得て、入学志望者の学力レベル向上、学習意欲の向上、卒業生の評価向上を図る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 理系コンソーシアムおよび同窓会と連携し、支援者の拡大を図る。また、キャリア相談会等のイベントを 2 回以上開催する。</p>	